

医療法人済恵会 広報誌

オアシス63号

医療と介護の連携強化

病院長
須藤 英仁

秋も深まり、澄んだ空気と紅葉の木々が目に付く今日この頃です。今年も残り2ヶ月となり、月日の経つのは早いものだと感じるのは私だけでしょうか。センチメンタルな出足となってしまいましたが、当院では今月より「介護・医療支援相談室」を病院待合室に設置いたしました。今年のオアシス春号に書きましたように、医療と介護の境界がますますなくなり連携の強化が求められる今、医療介護を問わず患者さんのためには、まず行動を起こすことが強く求められていると感じたからです。

医療人はとにかく、医療の必要な方には病院で入院、介護の必要な方には老人保健施設でケア、とそれぞれの施設を別個に考えがちです。しかし、当事者の患者さんにとっては、病院でも老人保健施設であっても場所に関係なく、病状・状態が少しでも改善すればと考えているのではないのでしょうか。

現在病院には、入院患者さんに様々な規制があります。一般病棟（当院3階病棟）の入院期間は平均19日以

下を求められ、回復期リハビリ病棟（2階20床）では脳卒中は150日まで、大腿骨頸部骨折は90日までと入院日数の上限が設定されています。また療養病棟（2階27床）では、医療区分（必要な医療の程度）が3段階に分類される中、病状の重い、医療区分2・3以上の入院者の割合が80%以上入院していることが求められます。このような規制は、一般の患者さんが知らないのは当然です。患者さんにとっては病状・介護状態が少しでも良くなればと当院に受診されていると思われれます。これら医療・介護の交通整理をし、一刻も早く介護サービスが受けられるように、手続きのアドバイスを病院で行えることを目的とし「介護・医療支援相談室」を設置いたしました。相談室はケアマネジャーの三好を中心に、長年当院看護部長を務めた浦野、こかげ責任者の大澤も参加する予定です。介護について、また介護・医療の連携で困ったこと、疑問なことがありましたら、どうぞ遠慮なく声をかけていただきたいと思ひます。

また当法人におきましては、今後の新しい医療と介護の深い連携をつくるため、訪問看護の復活を行い、訪問介護は24時間対応の在宅介護支援が行えるヘルパーステーションへと増強していきたいと考えております。また、別法人として築瀬に「ジョリエやなせ」というケアハウスも運営しています。ケアハウスとは、ある程度自立した人が中心の施設で、県からの補助もでていたため、入所時に入居金など一切お金がかかりません。県からの補助の関係で3食付個室で月に7万～12万円位（年金支給額により変わります）と非常に格安になっております。老健施設めぐみ、ジョリエやなせ、療養・回復期リハビリ病棟などの利用者は、私が責任を持ちまして、何かあった時には、最期までケアをさせていただきます。是非お気軽に相談員に声をかけて下さい。

話は変わりますが、今年の夏私は、オーストリアの救急病院を見学する機会を得ました。モーツァルトやカラヤンの生まれたザルツブルグという町の外科中心の病院でした。私は今まで日本の病院は世界の中でも有数の設備を誇っていると考えておりましたが、オーストリアの病院の方が遙かに進んでいると感じました。廊下は緩やかなカーブを描き、居室は2人部屋でしたが、ベッドの配置で個室に感じるように感じられる工夫がされており、屋上には植物が植えられた屋上庭園があり、患者さんがゆったりと散歩をしていました。通訳の方の話では隣国チェコの救急患者は国境を越えオーストリアまで運んでくるとのことでした。オーストリアは農業と観光の国で日本のように工業は盛んではありませ

んが、政策一つで素晴らしい環境の病院が出来ると感じました。また通訳の方によると、この病院が決して特別に素晴らしい病院ではなく、ごく一般的なオーストリアの病院であり、この国に暮らしている限り病気になった時の心配は全くしていないとのことでした。これは私にとって、大変ショックなことでした。日本は低医療費でも世界の最高寿命を誇り、いつでも平等の質で全ての病院へ受診できるシステム（フリーアクセス）は世界には例が無く、日本が一番だと思っていたからです。このことは、私の頭が単なる「ガラパゴス現象」に陥っていただけと感じました。

つまり、日本という狭い島国の単一民族が、世界の事情を知らず、自分が世界一だと思っている間に、各国が医療に対し努力を重ね、日本にまさるとも劣らない医療や病院を構築していたということです。今後私たちは世界にも目を向け、よりよい病院・よりよい医療システムをつくらなければいけないと強く感じました。

しかし、当院がまさったと思える点がありました。それは廊下の幅です。当院2・3階病棟の廊下の幅は5mありますが、これはどの国の病棟の廊下の幅よりも広いようです。

今後も医療・介護の連携をはじめ、出来るだけ安中市民の皆様の助けとなるシステムを考えていきたいと思っておりますので宜しくお願い致します。

須藤英仁



老人保健施設めぐみ 納涼祭報告

納涼祭実行委員会
委員長 和田佳子



いつも介護老人保健施設めぐみをご利用頂き、ありがとうございます。今年も8月20日にめぐみの納涼祭を開催する事が出来ました。当日、天候が心配されていましたが、予定通り開催する事が出来ました。年に一度のお祭りをご家族またはめぐみの仲間と過ごす、かけがえのない時間にして欲しいと思い、準備をしてきました。今年は屋外での神輿や太鼓もあり、例年以上に賑やかになりました。そして、何よりも普段よりも

キラキラとした利用者様の笑顔を

見られ、とても嬉しく思っております。また、利用者様、ご家族様、慰問の皆様、ボランティアの皆様のご協力により、無事に終わることが出来た事を感謝致しております。ありがとうございました。

今年は利用者様、ご家族様、ボランティア様等含めて約400名以上の方々に参加していただきました！本当にありがとうございました！何かご意見がございましたら、遠慮なくおっしゃっていただけるとありがたいです。また、来年も宜しくお願い致します。



回復期リハビリ 病棟のご紹介



看護課長 大堀 由理枝

皆様こんにちは。今回この機会をいただき、2階回復期リハビリテーション病棟のことを少し知っていただければと思います。

回復期リハビリ病棟が対象となるのは、脳血管疾患や骨折の急性期を過ぎた患者様です。もう少し詳しく言いますと、手術や点滴などの治療が終わり、家へ帰る為の準備をする患者様、ご自身やご家族が自宅へ帰ることを希望されリハビリを積極的におこなえる患者様となります。対象となる患者様であっても、残念ながら20床というベッド数のため、ご希望を受けられないこともあります。また、認知症が進みリハビリに協力がいただけない患者様は受け入れが困難となります。

回復期病棟では患者様それぞれに合わせてリハビリ目標を設定し、医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・看護補助がチームを組んで情報を共有し、在宅への退院に向けてリハビリをおこなっております。患者様やご家族にとってリハビリの目標を設定するなかで、排泄問題の解決は重要なポイントとなります。そこで、オムツを外し、トイレで排泄する為に必要な動作を見ていきます。尿意がわかるか、トイレで一人で立っていただけるか、ズボンや下着の上げ下げが一人でこなせるか、と段階的に評価実施をしていきます。出来ないところは介助を行っていき、目標を達成できるように、身体の動かし方を一つ一つ進ん

でいけるよう援助をしています。トイレ動作の自立までは介助や見守りをおこなっています。またトイレ動作の自立が困難であっても、入院中に安全に車椅子などに乗り移る動作や、車椅子・歩行器・杖を使って、安全に移動する方法を獲得することは、退院後の生活の再構築に欠かせない重要なポイントとなっています。尿意のわからない患者様には日中オムツを外し、トイレで排泄出来るように時間を決めて介助、誘導をおこなっております。入院生活の中で患者様の能力に応じてご自身で出来ることはおこなってもらい、出来ないことを病棟スタッフがお手伝いしております。

患者様が家に帰る為のリハビリだとわかっていても、辛さや不安を感じる事が多いと思われれます。患者様が頑張れるよう気持ちを支えることが重要だと考え、私達は患者様の声を聞くように努力しております。また、リハビリが進み行動範囲が広がると転倒の危険が高くなり、私達はヒヤリとすることが多くなります。せっかく良くなったのに、再度骨折などあれば、一番辛いのは患者様となります。

退院に向けてのゴール設定は患者様の回復の過程やご家族の状況により変化するため、軌道修正が必要になりますが、回復期リハビリ病棟には入院期間と算定上限日数が決められています。そのためゴール設定を明確化し退院に向けてどんな支援が必要なのか、介護保険などの利用は必要なのか、ご自宅に帰っても困らないよう、患者様やご家族と相談しながら進めていきます。

患者様にとって入院生活が安全でさらに楽しく、そして笑顔で退院していけるように今後ますます努力していきます。

介護・医療相談室開設



相談員
三好 由美子

みなさんこんにちは。10月より地域の皆様に介護と医療に関しての、相談窓口として「介護・医療の支援相談室」を開設させていただく事になりました。担当の三好です。

今後、受付カウンター隣の相談室におり

ますので「家族の介護の事でちょっと困っている」とか「入院に不安があるのよ」等々話しをしてみたい・聞いてみたいと思っていた事があれば、お気軽に話しに来てください。

相談と堅苦しく考えず、主治医の先生や看護師さん、病院スタッフにちょっとひと声掛けていただければ、こちらから伺ってお話しさせていただくことも出来ますので、お気軽に声を掛けてくださいね。宜しくお願い致します。

(詳しくは裏面広告をご覧ください)

新 人 紹 介

- ① 目標・夢
- ② 趣味・特技について

柳澤 真人 准看護師



- ① 忘れっぽいのでひとつひとつのことをしっかり覚えながら働いていきたいと思っています。
- ② ゲーム・車いじり・絵を描くこと 浅く広く何でもやります。

小林 俊正 理学療法士



- ① 患者様の力になれるよう、日々努力し成長していきたいと思っています。
- ② スキー

鈴木 すみえ 臨床検査技師



- ① 新しい環境に早く慣れ、いつも笑顔で頑張りたいと思います。
- ② サッカー観戦

田中 泰子 看護助手



- ① 色々な事が初めての経験ですが、自分の財産になるよう頑張ります。
- ② お菓子作り (趣味)

中里 奈美 介護福祉士



- ① 「めぐみに来てよかった」と言われるような、介護福祉士になりたいです。
- ② 読書・バレーボール・カラオケ

介護・医療相談室のご案内

地域の皆様の医療と介護のなんでも相談窓口です。

病気によって起こる様々な生活上の問題。病気になっていろいろ心配している方が、安心して治療を受けられ、生活を続けられるようにお手伝いします。

介護保険の相談・代行申請・ケアマネジャーの紹介・入院・入所の相談、介護保険・身体障害者各種制度について、医療・介護・福祉について、何でもご相談下さい。

困っていませんか？

- * 介護保険の利用について。
- * 福祉制度の利用方法がわからない。
- * 入院・受診の相談。
- * 退院後の自宅での生活が心配。
- * ご家族の介護の悩み。
- * その他不安や悩みについて話したい。 等々



ご本人をはじめ、ご家族の方もぜひご利用下さい。

ケアマネジャー・医療ソーシャルワーカー等、専門の職員がご相談を伺います。

相談受付時間 午前9：00～12：30まで(日曜・祝祭日休み)

連絡先 須藤病院 介護医療支援相談室(担当 三好)

電話番号 TEL 027-382-3131(代表)

※ 相談内容に関わる秘密は厳守されます